

～ ヒロシマを訪問して考えた
戦争の悲惨さと
平和の大切さ ～

青梅・羽村
ピースメッセージャー
レポート 2017

平成30年2月
青梅・羽村子ども体験塾

はじめに

広島は人類史上初となる原子爆弾が投下された都市として、日本国内のみならず世界中に知られていますが、戦後73年という長い月日が経つにつれ、その当時の事を直接体験して記憶されている方は非常に少なくなってきました。

戦争の記憶が風化されることが懸念される昨今において、73年前の8月6日、午前8時15分に広島で起きた惨劇を改めて学ぶことは、現代を生きる私たち、なかでも次の世代を担う若い世代にとって、非常に重要なことであると考えています。

そこで、青梅市と羽村市の中学生25人を「青梅・羽村ピースメッセンジャー」として、大学生リーダー5人、中学校教員2人、市職員3人の計35人で広島を訪問しました。8月6日に行われた平和記念式典にも参列し、過去に起きた惨劇を風化させないよう、平和な社会を目指す広島に国内外から多くの人たちが集まり、広島平和記念公園内の平和を願う特別な空気を体感してきました。

広島では、広島平和記念資料館をはじめとした原爆に関する施設を訪れ、世界遺産である原爆ドームや旧広島陸軍被服支廠ししやうなどの被爆施設や資料、原爆犠牲者への慰霊いれいや平和への祈りなどの思いが込められている慰霊碑いれいひ、復興のシンボルとして今も走り続けている被爆電車などを見学してきました。

また、当時、広島電鉄家政女学校1年生で、勉強をしながら路面電車の車掌として働き、原爆投下から3日後の路面電車の運行にも携わった笹口里子ささぐちさとこさんや爆心地近くで建物疎開作業をしていた1年生が全滅となった旧制広島県立第二中学校の23期生(当時の2年生)である浅野温生あさのよしおさん、小畑彰三こばたしょうぞうさん、田淵廣和たぶちひろかずさん、塚本昭つかもとあきらさん、新出稔雄にいでとしおさん、山本定男やまもとさだおさんにご協力いただき、原爆投下前から現在に至るまでの貴重なお話を伺いました。

さらに、原爆でおよそ330人の生徒・職員が犠牲となった広島女学院中学高等学校の現中学3年生にもご協力いただき、平和について一緒に考える機会をいただきました。

このレポートは、青梅・羽村ピースメッセンジャーの活動と、この体験を通じて考えた新たな平和への決意について報告します。

平成30年2月

青梅・羽村子ども体験塾実行委員会

— 目 次 —

1	青梅・羽村ピースメッセンジャーについて	1
	目的	1
	参加者	2
	【中学生名簿】	3
	【大学生リーダー名簿】	4
	【指導員名簿】	4
	【市職員名簿】	4
	事業概要	5
2	活動内容	6
	事前研修	8
	1回目	8
	2回目	9
	3回目	10
	出発式	12
	広島訪問に向けての抱負	14
	広島訪問	17
	1日目 平成29年8月4日(金)	18
	被爆体験談語り 笹口里子さん	18
	旧広島陸軍被服支廠等の見学	22
	2日目 平成29年8月5日(土)	25
	被爆体験談語り(旧制広島県立第二中学校23期生)	25
	広島二中原爆慰霊碑 お参り・献花	30
	慰霊碑等の見学	32

袋町小学校平和資料館の見学と路面電車	34
グループ活動（慰霊碑等の見学）	36
広島平和記念資料館の見学	39
3日目 平成29年8月6日（日）	41
平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）への参列	41
被爆電車の見学	43
事後研修	47
ピースワークショップ	50
派遣報告会	53
3 平和を願う作文（中学生）・事業を振り返って（大学生リーダー）	81
おわりに	113



1 青梅・羽村ピースメッセンジャーについて

目的

戦後 70 年以上が経過して戦争体験者が減少していく中、中学生などの若い世代が戦争を体験した人から直接話を聞くなど、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える機会が減少しています。

そこで、青梅市・羽村市の中学生を「青梅・羽村ピースメッセンジャー」として広島市へ派遣し、様々な平和関連事業を体験することで、戦争の悲惨さと平和の大切さを自らが考え、平和の大切さを発信できる人材を育成するため、青梅・羽村ピースメッセンジャー事業を行いました。



参加者



中学生	25人	(青梅市13人、羽村市12人)
大学生リーダー	5人	
指導員	2人	(青梅市1人、羽村市1人)
市職員	3人	(青梅市1人、羽村市2人)
合計	35人	

【中学生名簿】

青 梅 市			羽 村 市		
氏 名	学 校 名	学 年	氏 名	学 校 名	学 年
よしだ かのん 吉田 佳暖	青梅市立 第一中学校	2	いわの こうへい 岩野 耕平	羽村市立 羽村第一中学校	2
わだ みすず 和田 美鈴	青梅市立 第一中学校	2	うめばやし 梅林 ゆきの	羽村市立 羽村第一中学校	2
いしだ ひかり 石田 光	青梅市立 第二中学校	2	ふるかわ かえ 古川 佳愛	羽村市立 羽村第一中学校	2
いなば あおい 稲葉 葵	青梅市立 第三中学校	1	みつたけ こうへい 光武 航平	羽村市立 羽村第一中学校	2
ふじむら ゆめね 藤村 夢音	青梅市立 西中学校	3	あらい さくらこ 荒井 桜子	羽村市立 羽村第二中学校	3
おりうち るな 折内 瑠渚	青梅市立 第六中学校	2	いしの ふみか 石野 史華	羽村市立 羽村第二中学校	3
あさい はつね 浅井 初音	青梅市立 第七中学校	3	おだ みゆ 織田 未夢	羽村市立 羽村第二中学校	3
きむら すみれ 木村 純麗	青梅市立 第七中学校	3	やまだ ななみ 山田 七海	羽村市立 羽村第二中学校	3
うえはら さゆみ 上原 沙弓	青梅市立 霞台中学校	3	しおの もね 塩野 百音	羽村市立 羽村第三中学校	1
もろおか りんしょう 師岡 倫聖	青梅市立 吹上中学校	3	さとう なつみ 佐藤 七海	羽村市立 羽村第三中学校	2
しょうじ ゆい 庄司 結衣	青梅市立 新町中学校	2	なかやま あやか 中山 彩嘉	羽村市立 羽村第三中学校	1
ほしの かすみ 星野 かすみ	青梅市立 新町中学校	2	やまうち あんる 山内 杏流	羽村市立 羽村第三中学校	2
えんどう みお 遠藤 滯	青梅市立 泉中学校	2			

【大学生リーダー名簿】

氏 名	学 校 名
くすみ なつこ 楠見 奈都子	青山学院大学
ならの 奈良野 りさ	桜美林大学
まつばやし たいき 松林 太輝	帝京大学
たじま かつゆき 田嶋 克侑	杏林大学
さとう ともこ 佐藤 智子	杏林大学

【指導員名簿】

氏 名	所 属
ふくだ けいち 福田 恵一	羽村市立羽村第一中学校
いわさき ひとり 岩崎 人里	青梅市立第六中学校

【市職員名簿】

氏 名	所 属
あさうみ たくや 浅海 拓哉	青梅市企画部秘書広報課広聴・国際交流担当
くわた ひろし 桑田 浩史	羽村市企画総務部企画政策課企画政策担当
たかはし みわ 高橋 美和	羽村市企画総務部企画政策課企画政策担当

事業概要

青梅・羽村ピースメッセンジャー

事前研修：3回

- ・ヒロシマについての学習
- ・グループワーク
- ・出発式
- ・保護者説明会



広島訪問：3日間

- ・被爆体験談語り
- ・慰霊碑、旧広島陸軍被服支廠、広島平和記念資料館等の見学
- ・平和記念式典への参列
- ・振り返り



事後研修：2回

- ・振り返り
- ・報告会準備



ピースワークショップ・ 派遣報告会

- ・ワークショップの開催
- ・映像資料を使用した発表

作文

- ・平和を願う作文（中学生）
- ・事業を振り返って（大学生リーダー）

2 活動内容

活動内容は、「事前研修」、「広島訪問」、「事後研修」、「ピースワークショップ」、「派遣報告会」で構成しています。



- 事前研修 3回 7月7日(金)・14日(金)・24日(月)
出発式 7月27日(木)
- 広島訪問 3日間 8月4日(金)～6日(日)
- 事後研修 2回 8月11日(金・祝)・15日(火)
- ピースワークショップ 8月20日(日)
- 派遣報告会 8月20日(日)

- 事前研修

グループワークを中心に、太平洋戦争や広島に投下された原爆のことを学んだ上で、被爆体験者に聞いてみたい質問事項や広島平和記念公園等でのグループ活動について、話し合いました。

- 広島訪問

グループ行動を中心に、平和記念資料館や慰霊碑等を見学し、被爆体験者のお話を聞いて対話することや、被爆建物を直接、見て・触れることで、戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶ機会としました。また、最終日の8月6日には平和記念式典にも参列しました。

- 事後研修

広島訪問での体験や感じたことを振り返り、自分たちの言葉で広く発信するため、派遣報告会での発表の準備に取り組みました。

- ピースワークショップ・派遣報告会

過去の参加者とともに改めて平和の大切さを考える機会となるよう、ワークショップを行い、一人ひとりの平和へのメッセージを作成し、派遣報告会では、一連の活動を通じて感じたことなどをグループ毎に発表しました。



事前研修

【1回目】 平成29年7月7日（金）19:00～21:00
羽村市生涯学習センターゆとろぎ



ピースメッセンジャー全員が集まり、初めて顔を合わせました。

まず、参加者全員が、学校名や学年、クラブ活動や趣味などの自己紹介を行いました。広島訪問時での活動は、グループ活動が中心となるため、中学生5人と大学生リーダー1人で構成するグループに分かれ、改めてグループ内での自己紹介等を行った後に、グループ名について意見を出し、「グループ名」を決定しました。



【2回目】 平成29年7月14日（金） 19：00～21：00
青梅市役所



広島平和記念資料館が発行している「学習ハンドブック」に沿って、以下のことについて学習しました。

- ・原子爆弾とは
- ・非核三原則
- ・原爆投下の経緯
- ・広島という街について
- ・原爆の被害について
- ・^{ささくちさとこ}笹口里子さんの紹介、被爆（路面）電車について
- ・平和公園について
- ・慰霊碑の紹介

その後、グループ行動（慰霊碑等巡り）について、グループ毎に検討しました。



【3回目】 平成29年7月24日（月）10:00～16:10
羽村市コミュニティセンター

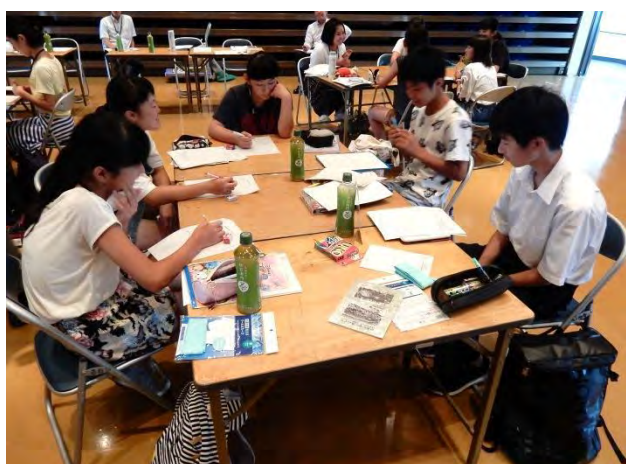


広島訪問時の見学場所を決定し、その順路や経路等の確認など、具体的な慰霊碑巡りの準備や、被爆体験者への質問事項の検討をグループ毎に行いました。

また、福田先生から、被爆体験談を伺う笹口里子さんと、旧制広島県立第二中学校 23 期生のことについて講義を受けました。



午後は、岩崎先生による「戦争の歴史～太平洋戦争とはどのような戦争なのか～」の講義を受け、戦争が起きた背景等を学び、その後、広島訪問に向け、それぞれの抱負を書いたメッセージボードを作成しました。



**【出発式】 平成29年7月27日（木） 19：00～19：30
青梅市役所**



青梅市長、羽村市長、学校関係者や保護者などに対して、ピースメッセンジャー全員が、広島で学びたいことや広島で体験したいことなどの抱負を述べました。

出発にあたり、両市の市長、副市長、教育長から激励をいただきました。

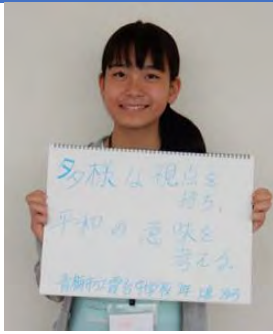


その後、ピースメッセンジャーは、原爆投下後の旧広島陸軍被服支廠^{ししやう}の様子が描かれた^{とうげ}峠
三吉^{さんきち}著の「倉庫の記録」の一部を読み、指導員から同施設の解説等を受けるとともに、広島
訪問における最終確認を行いました。



広島訪問に向けての抱負

グループ名：それゆけ！田舎者



青梅震台中 3年
上原 沙弓

多様な視点を持ち、
平和の意味を考える



青梅新町中 2年
庄司 結衣

知識を吸収し、
豊かな意見をもつ



羽村一中 2年
梅林 ゆきの

戦争の裏を知る
平和の裏を知る



羽村二中 3年
荒井 桜子

広島と平和について学ぶ！



羽村三中 2年
佐藤 七海

今の平和の理由(わけ)を知る!!



大学生リーダー
楠見 奈都子

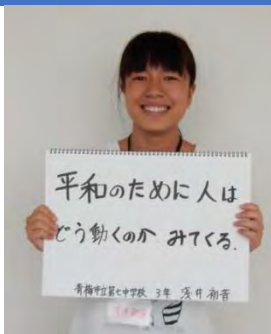
学びを深め発信する

グループ名：Peace girl's



青梅一中 2年
和田 美鈴

正しい平和を学びたいです。



青梅七中 3年
浅井 初音

平和のために人はどう動くかみてくる。



青梅新町中 2年
星野 かすみ

自分で見て感じ、
平和の意味を学ぶ



羽村二中 3年
山田 七海

平和がどれだけ大切なか学んでくる。



羽村三中 1年
塩野 百音

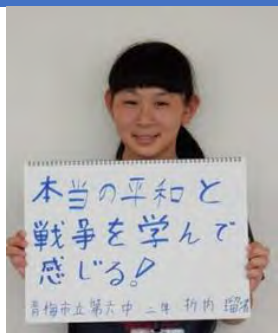
本当の平和を探して来る。



大学生リーダー
奈良野 りさ

次の世代に受け継ぐ

グループ名：たこ焼き♪♪



青梅六中 2年
折内 瑠渚

本当の平和と戦争を学んで感じる！



青梅吹上中 3年
師岡 倫聖

本当の平和の意味を言葉、目、肌で感じ伝える



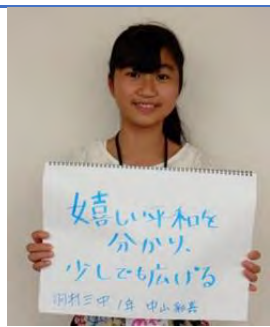
羽村一中 2年
光武 航平

本当の平和とは何か。戦争と原爆の真実を求め、伝える。



羽村二中 3年
石野 史華

本当の平和とは何か。学んで感じる。



羽村三中 1年
中山 彩嘉

嬉しい平和を分かち、少しでも広げる。



大学生リーダー
松林 太輝

平和に触れる

グループ名：katsudon



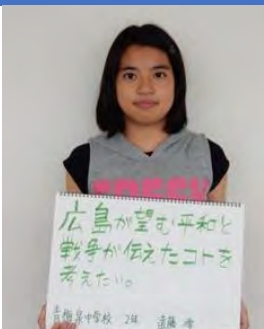
青梅二中 2年
石田 光

真の平和を考える。



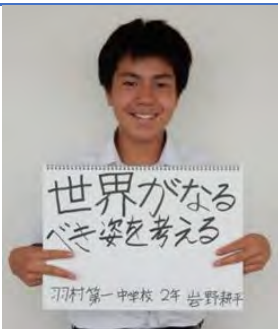
青梅七中 3年
木村 純麗

イビツな平和をなくしたいです。



青梅泉中 2年
遠藤 滯

広島が望む平和と戦争が伝えたコトを考えた。



羽村一中 2年
岩野 耕平

世界がなるべき姿を考える。



羽村三中 2年
山内 杏流

戦争をなくし、平和をつくるには。



大学生リーダー
田嶋 克侑

百聞は一見にしかず

グループ名：赤べこ



青梅一中 2年
吉田 佳暖

戦争の真実を学び、
平和を考え、深める。
本当の



青梅三中 1年
稲葉 葵

戦争の恐ろしさと平和の
在り方を勉強しに行く！



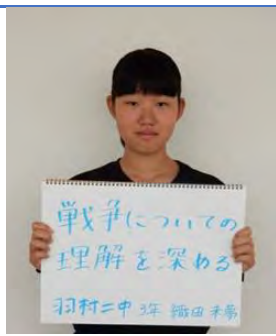
青梅西中 3年
藤村 夢音

広島の人々の「平和」とは
何か、考える。



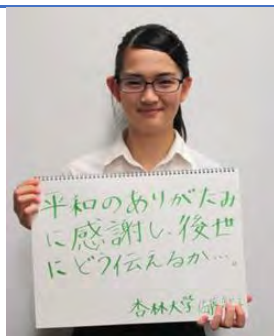
羽村一中 2年
古川 佳愛

戦争について学び、
語り継ぐ。



羽村二中 3年
織田 未夢

戦争についての
理解を深める



大学生リーダー
佐藤 智子

平和のありがたみに感謝
し、後世にどう伝えるか…。



平成29年度「青梅・羽村ピースメッセンジャー」出発式

広島訪問

8月4日（金）～6日（日） スケジュール

8月4日（金）		8月5日（土）		8月6日（日）	
5:00	青梅市役所集合 （青梅市中学生）	6:00	起床	5:00	起床
5:10	青梅市役所出発（バス）	6:30	朝食	5:30	朝食
5:20	羽村市役所集合 （羽村市中学生）	7:40	ホテル出発	6:40	ホテル出発
5:40	羽村市役所出発（バス）	9:00	被爆体験談語り （旧制広島県立第二中学校 23期生・広島女学院中 学高等学校中学3年生）	7:00	平和記念式典への参列
8:10	東京駅出発 （のぞみ15号） ※車内で昼食	11:45	広島二中原爆慰霊碑 への献花 慰霊碑等の見学 （平和記念公園内）	9:00	慰霊碑等の見学 （広島平和記念公園内）
12:08	広島駅到着	12:00	昼食（むさし土橋店）	11:00	昼食（お好み共和国）
13:00	被爆体験談語り （笹口里子さん）	13:30	袋町小学校資料館・ 慰霊碑等の見学 （平和記念公園内）	12:30	自由時間 ※おみやげ購入等
15:00	旧広島陸軍被服支廠 等の見学	15:45	広島平和記念資料館の 見学	13:53	広島駅出発 （のぞみ132号）
16:30	広島市郷土博物館の 見学	18:20	夕食	17:53	東京駅到着
18:15	夕食	19:30	グループミーティング （振り返り）	18:30	東京駅出発 （バス）
19:50	グループミーティング （振り返り）	21:30	消灯	20:00	羽村市役所到着・解散 （羽村市中学生）
22:00	消灯			20:30	青梅市役所到着・解散 （青梅市中学生）

1日目 平成29年8月4日(金)

被爆体験談語り 笹口 里子さん(広島国際会議場)

広島訪問の初日、暑い夏の日差しが照りつける広島に到着したピースメッセンジャーは、広島国際会議場内の会議室にて、原爆投下当時に広島電鉄家政女学校の1年生で、路面電車の車掌として運行に携わっていた^{ささぐち}笹口^{さとこ}里子さんから、原爆が投下された前後のことや、当時の暮らしの様子、平和な社会への思いなどを聞きました。

広島路面電車は、市内を縦横に走っていることから、公共交通として利用されており、今も多くの電車が走り、市民の足となっています。この路面電車は、軍都として栄えていた広島で人や物資の輸送など、非常に重要な役割を担っていたことから、継続して運行していく必要がありました。しかし、当時、戦況が益々悪化していく中で、運転手や車掌をしていた男性までもが徴兵される中、労働力を確保するために、1943年(昭和18年)4月に広島電鉄家政女学校が開校されました。入学した女学生は、寮での共同生活に加え、勉強をしながら路面電車の運行を行うといった、『勉強をしながら給料がもらえる』学校の生徒でした。1945年(昭和20年)当時、この広島電鉄家政女学校の1年生として働いていたのが、^{ささぐちさとこ}笹口里子さんです。なお、広島電鉄家政女学校は、終戦後の1945年(昭和20年)9月に廃校となり、2年7か月といった短い期間で幕を下ろしたことから、1人の卒業生もいない『幻の学校』と言われています。

^{ささぐち}笹口さんは、14歳の時に100人ほどの同級生と一緒に女学校に入学しました。

週に1度の休みには、同じ学校の3年生であったお姉さんと一緒に、映画や写真館での写真撮影を楽しんでいたそうです。



笹口里子さん



広島電鉄 千田車庫

忘れられない8月6日、あの日は午後番での乗務だったため、寄宿舎の食堂で朝食に箸をつけた時に、被爆しました。とてつもない爆風とともに、隣の専売局の屋根から大きな火の手が上がるのを見た後、気絶してしまいました。目を覚ますと、朝食や食器、窓ガラスだけでなく、壁や柱などが部屋中に散らばり、瓦礫の中にいたと言います。

御幸橋^{みゆきばし}で見た異様な姿の被爆者は、『全身が焼けただけ、皮膚が垂れ下がりながら、手を前に出して、行列をなして歩いている姿』で、あの光景は今も忘れられないそうです。

その後、先生、生徒とともに、宇品^{うしな}方面に避難した後、非常時の避難先に決められていた姉妹校の実践女学校を目指し、焼き尽くされた広島を中心部を通して、歩き続けたそうです。その時の辛さを『歩いて、歩いて、歩いて、歩いて…』と表現されていました。

広島電鉄株式会社の本社前にある説明書



実践女学院に到着すると、『お姉ちゃんは?』と改めて我に返り、辺りを探すと、お姉さんの姿を発見しました。再会したお姉さんと、お互いの無事を心の底から喜び合い、女学校で互いの髪を梳き合ったそうです。しかし、髪がごそつと抜け落ちてしまいました。

そんな中であっても、まだ14歳。校庭の鉄棒を見て『遊びたい』と率直に思いました。しかし、この事を今では後悔していると言います。

「被爆して全身に傷を負っている方が、こんなにも大勢いる中で、遊ぶことよりも看護をしなくてはいけないのに…本当に申し訳なかった」と、お話をされていました。



笹口さんの避難経路（解説：中澤晶子さん）

一瞬にして瓦礫だらけの焼け野原になった広島で、走行していた路面電車123両のうち108両が破壊されました。運行を再開できることは、到底厳しい状況下でありながら、広島電鉄株式会社の社員を始め、多くの方たちがすぐに復旧作業に取り掛かります。そして、復旧作業からわずか3日後の8月9日、一部の区間ではありましたが、路面電車は運行を再開したのです。その運行に携わったのも、^{ささぐち}笹口さんなど広島電鉄家政女学校の女学生でした。



笹口里子さん

^{ささぐち}笹口さんも、そんな一番電車で車掌として乗車し、お客さんは皆、寂しそうで悲しそうな表情だったとお話されていました。

お話の最後には、「今の若い人は幸せだと思う。戦争をして良い事は一つもないんだから。戦争がなく、憎しみ合うこともなく、平和でいればいい。」とメッセージをいただきました。



旧広島陸軍被服支廠等の見学

港湾と鉄道が整備され、大陸進出の基地に適していた広島には陸軍関連の施設が次々に建てられていきました。中でも大きな存在感を持ったのが、兵器支廠・被服支廠・糧秣支廠であり、今回の広島訪問では、『被服支廠』と『糧秣支廠』（現：広島市郷土博物館）を見学しました。

『廠』とは現在の倉庫のようなものを意味しており、被服支廠は、当時のまま現存する被爆建物としては最大級の規模を誇る施設で、軍服などの製造・修理・保管などを行っていました。建物が非常に頑丈であったため、被爆直後は救護所にもなりましたが、そこでの惨劇は、峠三吉の詩集にも掲載され、今なお語り継がれています。

ここでは、児童文学作家の中澤晶子さんに、峠三吉の「倉庫の記録」（原爆の被害を受けた直後からの被服支廠の様子を表した詩）を朗読していただきました。



被服支廠の外観

中澤晶子さんによる朗読の様子



真っ暗な倉庫内で聞く「倉庫の記録」は、72年前の8月6日に起きた惨劇を、誰しもが想像しうるほどの異様な空気に包まれて、爆心地から約2.7kmも離れていながら、爆風だけで鉄扉が折り曲がる姿は、住宅街の中にありながら、異様な存在感を放っていました。被服支^{ししょう}廠は、戦後、大学の学生寮や運輸会社の倉庫として使用された後、現在は県が管理していますが、同施設内の見学は、耐震性の関係により私たちが最後になる可能性があるとの話を、県の担当者から伺いました。このような施設が存在することの意義や、その価値を直接肌で感じとることができる良い機会となりました。



りょうまつししよ
糧秣支廠では軍人のための牛肉な
どの缶詰が生産されていました。爆心
地から距離があったこともあり、窓が
損傷するなどの被害はありましたが、
建物自体は倒壊しませんでした。

しかし、想像を超えた原爆の威力に
より小屋組の鉄は曲がりながら、今も
残っています。その後、保存改修工事
を終えた糧秣支廠は、1985年（昭
和60年）に広島市郷土資料館として
開館しました。



折れ曲がった鉄鋼



2日目 平成29年8月5日(土)

被爆体験談語り 旧制広島県立第二中学校23期生(広島国際会議場)



旧制広島県立第二中学校(以下、「旧制広島二中」)23期生の^{あさのよしお}浅野温生さん・^{こばたしょうぞう}小畑彰三さん・^{たぶちひろかず}田淵廣和さん・^{つかもとあきら}塚本昭さん・^{にいでとしお}新出稔雄さん・^{やまもとさだお}山本定男さん(※出席予定だった^{くにしげまさひろ}国重昌弘さんは、当日、検査入院のため欠席となりました。)を講師にむかえ、地元広島で平和学習を熱心に取り組んでいる広島女学院中学高等学校(以下、「広島女学院」)の中学3年生14人にも参加していただき、グループに分かれて被爆体験談を伺いました。

この被爆体験談語りでは、旧制広島二中の当時2年生である23期生が体験した原子爆弾の惨劇や、その後どのように復興に立ち向かったのか、次代への平和のメッセージを伺い、ピースメッセンジャーが『平和の大切さ』について考えを深めることを目的として対話を重ねました。

まず、オリエンテーションとして、ピースメッセンジャーと広島女学院の皆さんで、自己紹介を行い、その後、今までに実施してきた平和学習についての意見交換を行いました。

その中では、現地、広島の中学校に通う生徒たちでも、今回のように直接、被爆体験者から体験談を聞くといった機会が減少していると話していました。そんな中、『今日期待していること』などを参加者がそれぞれ話し、対話の準備を進めました。

緊張がほぐれたところで、旧制広島二中23期生の方々から被爆体験を伺いました。23期生の方々には、各々にご用意いただいた資料等を見せながら、戦時中の広島の様子から、忘れられない、1945年（昭和20年）8月6日 8時15分を、どこでどの様に過ごしていたのか。また、原爆投下後の行動や街の被害状況などについて、中学生だった当時の体験や気持ちなどを振り返りながら、お話しいただきました。参加者は、熱心に話を聞きながら、この貴重な経験を忘れないために、お話の内容を記録していました。



また、「もっと詳しく知りたいこと」などについて、質疑応答も行いながら対話を重ね、23期生の方々には、当時の様子を参加者が共有できるように、ピースメッセンジャーたちに寄り添いながらお話をいただきました。

旧制広島二中 23期生の皆さんからは次のようなお話がありました。

- その当時、13歳で今のように夏休みがあるわけではなく、1年生と2年生は、建物疎開作業と学校での授業を交互に行っていた。8月6日、2年生（23期生）は、元々学校で授業を受ける予定だったが、急きょ、東練兵場のさつまいも畑の草取りに行くことになった。
- さつまいも畑の草とり作業の場所だった東練兵場から、B29が飛んでくるのが見えたが、いつものように偵察機だろうと思っていた。すると突然、2機のB29は方向を変え、空から何かが落ちてくるのが見えた。
次の瞬間、あたりが真っ暗になり、熱風で息もできず、音も聞こえず、作業で運んでいた木材が空に舞い上がるのが見えたとき、死ぬのではないかと思った。
- 建物疎開作業で爆心地に近い本川沿いの土手に集合していた1年生は、ほとんどの方が即死し、最終的には、先生を含め全員が亡くなった。
- もし、原爆投下が1日前後していたら、2年生が建物疎開作業を行っていたため、死んでいたのは、私たちだったと思う。この1日が、「1年生」と「2年生」の生死を分けた。
- 大火傷を負いながらも、避難所へ向かうため2時間以上歩き続けた。避難所の小学校に到着し、友人たちと安否確認をしていると、全身火傷の目の見えていない怪我人がいて、近所の友人（1年生）だと分かった。次の日お見舞いに行った時の、最後に発した「サヨナラ」の一言は今でも忘れられない。
- 意識が戻り、避難した山から下りると、まちは地獄のようだった。長い距離を歩いて実家まで帰り、次の日からは火傷との戦いだった。周りの人は髪が抜け、次々と死んでいくのを見て、助からないのではないかと感じながらも、家族は懸命に看病してくれた。
- 原爆投下の翌日、焼け野原となったまちを歩くと、いつもは建物が並んでいて見えないはずの山が、その時には綺麗に見えた。まちには、たくさんの死体が転がっていて、すれ違う人は溶けた皮を腕からぶら下げていた。



- 終戦になり、一番終戦を実感したのは、夜に電気を付けられることだった。今思えば少年時代はすべて戦争に繋がっていて、自分の意志で生きられるのは20歳までで、あとは国まかせだと感じていた。一人ひとりが心の中に相手を思いやる優しさを持ち、身近なところから平和の輪を広げてほしい。かけがえのない人の命を大切にして、今の平和を次の世代へと受け継いでいってほしい。勉強したり、たわいもない話をしたりするこんな平凡な一日一日を、幸せだと感じて過ごしてほしい。
- 今の若者には、今できること！一生懸命できること！を頑張ってもらいたい。志なかばで、死んでいった1年生のためにも。
- 私たちがどうやって次の世代に語り継いでいくかを考えることが、自分の使命だと思う。今ある平和がいかに尊いものかを気づき、大切にすべき。

忘れることができないあの日の惨劇を、ひとつ、ひとつ、丁寧に、「皆にとっての平和ってなに？」と語りかけるように、辛い日々の思い出をお話していただきました。





お話しを伺った旧制広島二中 23 期生の皆さん

(左から、^{こぼたしょうぞう}小畑彰三さん・^{つかもとあきら}塚本昭さん・^{やまもとさだお}山本定男さん・^{あさのよしお}浅野温生さん・^{にいでとしお}新出稔雄さん・^{たぶちひろかず}田淵廣和さん)



広島二中原爆慰霊碑 お参り・献花



広島二中原爆慰霊碑

23期生の方々から貴重なお話を聞かせていただいた後、会場近くにある「広島二中原爆慰霊碑」に、広島女学院の皆さんと一緒に参りと献花をさせていただきました。戦災と原爆で亡くなった旧制広島二中の職員・生徒を慰霊するために建てられた慰霊碑の裏には、亡くなられた352人のお名前が刻まれています。その中には、事前学習で学んだ「^{いしぶみ}碑※」に記載されていた方々の名前も見ることができました。

※ ^{いしぶみ}碑：広島テレビ放送が1969年（昭和44年）に制作・放映したドキュメンタリー番組をもとに1970年（昭和45年）にポプラ社から刊行された書籍。旧制広島二中1年生の全滅の記録が記されている。



広島二中原爆慰霊碑に刻まれたお名前



慰霊碑等の見学

被爆した墓石（慈仙寺跡の墓石）、
韓国人原爆犠牲者慰霊碑、原爆供養塔
を、広島市在住の児童文学作家の中澤
晶子^{なかがわ}さんに、解説していただきながら、
見学しました。ピースメッセンジャー
は、^{さんさん}燦々と照りつける太陽の下、72
年前の様子を頭に浮かべながら、中澤
さんの解説に熱心に耳を傾けていま
した。



慰霊碑の解説(中澤さん)

被爆した墓石（慈仙寺跡の墓石）

爆心地からわずか200mのこの地には、当時、広い境内を持つ慈仙寺^{じせんじ}がありました。
被爆により建物は全て壊滅し、寺にいた全員が即死したという場所に、被爆の証人である墓石だけが残っています。今の平和公園は、盛り土をして造られましたが、この墓石周辺の地面は、被爆前のもともとの広島^{ひろしま}の地面をそのまま留めています。



韓国人原爆犠牲者慰霊碑

当時、日本が朝鮮を植民地とし、戦時中の労働力不足を補うため、多くの朝鮮人が日本で働いていました。当時の広島市内には、数万人にのぼる朝鮮人がいて被爆したとされています。韓国人原爆犠牲者慰霊碑は、強制労働等により広島で被爆した方々の慰霊と、再び原爆の惨劇を繰り返さないことを願うために建立されました。



原爆供養塔

被爆直後、爆心地に近い原爆供養塔の付近（当時の慈仙寺^{じせんじ}の境内）は、臨時火葬場となり、そこには、無数の遺体が運ばれ、火葬され、その後、氏名不詳や一家全滅などで引き取り手のない遺骨を供養するため、供養塔が建立されました。

今でも814柱の遺骨は引き取り手がなく、この供養塔に眠っています。



袋町小学校平和資料館の見学と路面電車

爆心地から460mしか離れていない袋町小学校（当時、袋町尋常高等小学校^{じんじょう}）は、原子爆弾によって多大な被害を受け、児童・教職員の多くが亡くなっています。木造の校舎は倒壊し、その後、火災で燃え尽きてしまいましたが、西校舎の一部が残ったため、救護所としての役割を果たすこととなります。現在は、平和資料館として、当時その救護所に入入りした人々が、家族に宛てた自分の消息や、家族の消息を探す尋ね書きなどが、今なお、壁面に残っています。



袋町小学校平和資料館前での解説(中澤さん)



袋町小学校平和資料館



壁面に書かれた家族等への尋ね書き



また、1日目にお話を聞いた笹口^{ささぐち}さんが、当時車掌をしていた路面電車。参加者全員で、現在の路面電車に乗車し、世界遺産である『原爆ドーム』まで向かいました。すると、現存する被爆電車3台のうちの1台が、乗車した車両の前を、偶然、走っていました。ピースメッセンジャーは、「笹口さんが乗っていた電車かなあ」と、当時と同じカラーリングを施された車両を食い入るように見ていました。広島派遣中、よく目にする路面電車ですが、「被爆電車が走っている姿を見られることは、広島でも珍しいけんね。」と、同乗していたバスガイドの松田^{まつだ}さんが教えてくれました。これも、熱心に学習するピースメッセンジャーが運んできた『奇跡』なのかもしれません。



路面電車内の様子



乗車した路面電車の前を走る被爆電車（653号）

グループ活動（慰霊碑等の見学）

事前学習で調べた慰霊碑等の見学を行いました。グループ毎に広島平和記念公園内を歩いて巡り、慰霊碑等がそこに設置されている意味や慰霊碑に記されている言葉などを確認していきました。参加者の多くが訪れた慰霊碑等を紹介します。

被爆したアオギリ

爆心地から約1.3km離れた広島^{ていしん}通信局の庁舎（現在の日本郵政グループ広島ビル）の中庭にあった。原爆の被害により枝葉はなくなり、枯木同然だったにもかかわらず、翌年の春になって芽吹き、被爆と敗戦の混乱の中で人々に生きる勇気を与えた。

とうげさんきちしひ 峠三吉詩碑

28歳の時、爆心地から3km離れた翠町の自宅で被爆し、その後は平和運動の先頭に立って活動をしていた峠三吉の勇気と平和への熱意を讃えた碑。

てんじんまち 旧天神町北組慰霊碑

天神町は爆心地からわずか500mの場所にあり、一瞬にして焼け野原と化した。戦後、平和記念公園となったことから、町はその姿を消した。消えた町と犠牲になった町民たちの冥福を永く祈るための碑。石碑に記された「噫」の読み方は…。



被爆したアオギリ



峠三吉詩碑



旧天神町北組慰霊碑

原爆死没者慰霊碑

世界で最初の原子爆弾によって壊滅した広島市を、平和都市として再建することを念願して設立したもので、原子爆弾で亡くなられた方の名前を記帳した原爆死没者名簿が納められている。

原爆の子の像

2歳の時被爆した佐々木禎子^{ささきさだこ}さんは、小学校6年生の時に白血病と診断され、8か月間の闘病生活の後、短い生涯を終えた。佐々木禎子^{ささきさだこ}さんをはじめ亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかける碑。

レストハウス

爆心地から170mの場所にあった燃料会館（大正屋呉服店）は、原爆により屋根が押しつぶされ、内部も破損、地下室を除いて全焼した。現在は、平和記念公園のレストハウスとして使われ、地下室は被爆当時の姿を留めている。



原爆戦没者慰霊碑



原爆の子の像



レストハウス



爆心地・島病院

広島に投下された原子爆弾の中心地。投下された原爆は、島病院の上空約600mで炸裂し、建物は瞬時に倒壊した。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

原子爆弾死没者を心から追悼するとともに、その惨禍を語り継ぎ、広く伝え、歴史に学んで、核兵器のない平和な世界を目指した資料館。

原爆ドーム

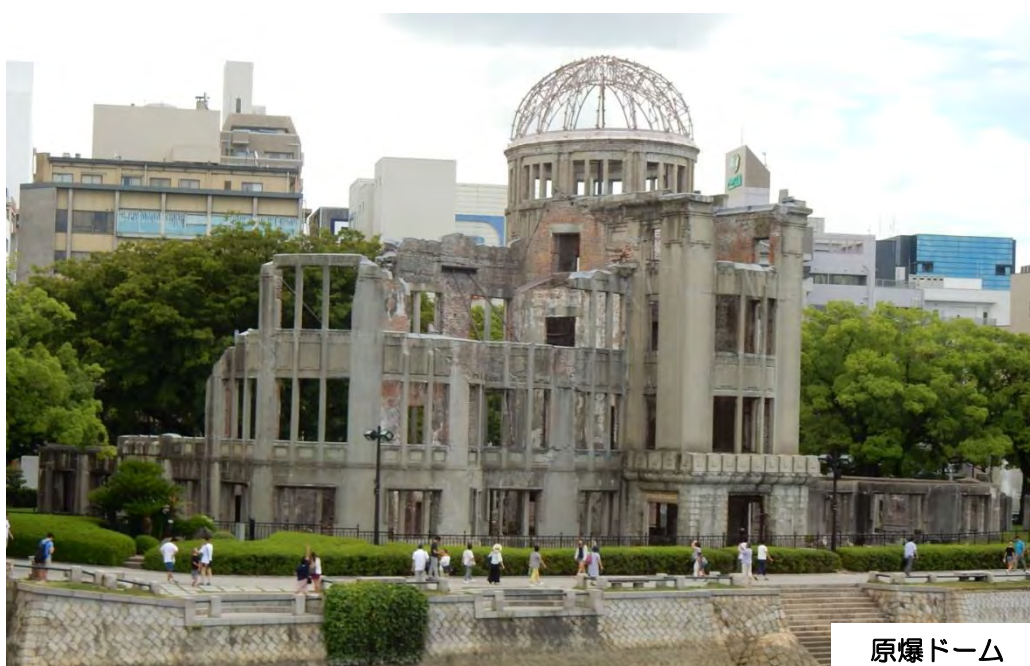
広島県物産陳列館として竣工し、広島の文化振興の場として大きな役割を担っていた。その後、広島県産業奨励館と改称したが、1945年（昭和20年）8月6日の8時15分、世界で最初の原子爆弾の投下により、大破、全焼。被爆の被害を今に伝える恒久平和のためのシンボルで、1996年（平成8年）に世界遺産に登録された。



島病院



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館（内部）



原爆ドーム

広島平和記念資料館の見学



本館は工事中につき見学できませんでしたが、東館を見学し、原爆投下前後の広島の様子、原爆被災の状況、熱線、爆風、高熱火災、放射線による人的被害などについて学習しました。大勢の来館者で混雑する中での見学ではありましたが、展示品を食い入るように見つめながら、写真や記録を取るなど熱心に見学していました。

また、2016年（平成28年）5月に広島を訪問したオバマ前アメリカ大統領が寄贈した『折り鶴』も見学することができました。



見学の様子



見学の様子

3日目 平成29年8月6日（日）

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）への参列



8月6日（日）午前8時から8時45分に開催された、平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列しました。

原爆の投下時刻である午前8時15分に、原爆や戦争で亡くなられた全ての方へ黙とうを捧げました。



8月6日午前8時15分 黙とう

黙とう後、広島市長による平和宣言、子ども代表による平和への誓い、内閣総理大臣からのあいさつなどがありました。



子ども代表による平和の誓い

式典終了後には、広島での最後のグループ活動として、広島平和記念公園周辺の見学や、広島県立広島第一高等女学校の慰霊式、広島電鉄千田^{せんだ}車庫での被爆電車の見学など、それぞれのグループで考えた平和学習を実施しました。



被爆電車の見学

最後に、広島訪問の初日、笹口^{ささぐち}さんの話を聞いて、さらに興味を持った路面電車について、学習の深掘りをするため、広島電鉄株式会社の千田^{せんだ}車庫に行ったグループを紹介します。

笹口^{ささぐち}さんからの被爆体験談を聞き、被爆電車を実際に見てみたいとの思いから、グループ「赤べこ」は路面電車で広島電鉄株式会社の本社に向かいました。

被爆電車を見ること自体が貴重であり、地元の方でもなかなか見ることができない中で、現存する被爆電車の「651号」、「652号」、「653号」の3両全てを見ることができ、大変貴重な体験となりました。



広島電鉄株式会社 千田車庫

また、本社の敷地内には、広島電鉄株式会社で働いていて、被爆された方々の慰霊碑があり、慰霊碑のお参りも行いました。



広島電鉄株式会社慰霊碑

そこで偶然、72年前に被爆した佐久間徳彦^{さくま とくひこ}さんと出会い、少しの時間ではありましたが、お話を伺うことができました。佐久間^{さくま}さんは、当時、笹口^{ささぐち}さんと同じ14歳で、この千田^{せんた}車庫で車両修繕をしていたこと、さらには、広島電鉄の被爆した車両も直したことについてお話を伺いました。

被爆による放射線の影響で、「草木も生えないだろう」と言われていた広島^{広島}の地で、原爆投下からわずか3日後に再開した路面電車。現在も広島^{広島}の復興の象徴でもある路面電車から多くの事を学び、感じ取ることができました。



市内を走る被爆電車（653号）

8月4日から6日までの広島訪問では、^{ささぐち}笹口さん・^{なかざわ}中澤さんとの出会い、^{ししやう}被服支廠への見学、被爆電車が広島市内を運行する姿を見たり、3両全ての被爆電車を見学することができたり、その車両の修理に携わった^{さくま}佐久間さんとの出会いなど、ピースメッセンジャーが過去の戦争や広島で起きた惨劇などと向き合い、明るい平和な未来への想いを個々に考え続けたことに対する、広島空が起こした『奇跡』であったと思います。

^{ささぐち}笹口さん、^{なかざわ}中澤さん、旧制広島二中23期生の方々のお話や^{ししやう}被服支廠、路面電車、慰霊碑などのお見学から、たくさんの事を感じ、考えた広島派遣での想いを胸に刻み、広島を後にしました。



～広島訪問の様子～



事後研修

1回目 平成29年8月11日（金・祝）9：30～16：00

青梅市役所

2回目 平成29年8月15日（火）9：30～16：00

羽村市生涯学習センターゆとろぎ

事後研修では、広島訪問で様々な経験をしたピースメッセンジャーが個々に振り返り、広島で感じたことや学んだことなどについて、グループ内で共有することから始めました。そして、大学生リーダーを中心に、グループ毎に派遣報告会での発表内容を話し合い、原稿の作成や写真の選定など、発表準備に取り組みました。



発表準備が整ったグループは、順次、福田先生、岩崎先生に確認していただき、アドバイスを受けるなど、度重なる校正を行い、発表内容を練り上げていきました。その後、個々の発表練習として、声の抑揚や話し方に注意しながら、自分たちの報告への想いが参加していただいた方々に届くよう、何度も何度も練習しました。また、8月15日の正午には、世界の恒久平和を願い、1分間の黙とうを行いました。



発表練習の様子



発表練習の様子



8月15日正午 黙とう